

「ドライ」とも堅調推移

グループで地方創生に貢献

日本地区は多く、それが安定要因の1つとなっている。養殖の一大拠地でもあり、鮮魚の輸送需要も目立っている。国際貨物も鮮魚や肉類などの生鮮貨物の輸出が底堅く、一般貨物は半導体関連を中心に取り扱っている。18年度の国内貨物は堅調に推移するとみている。九州販売部の濱田隆三部長は「各空港のロードファクターも上がっており、さらに伸ばしたい。19年度にはA350機も投入される」とり込み切れない需要もあると見ている。こうした供給拡大をきっかけとして需要取り込みを図りたい」と話す。全国にトラックドライバー不足の事業環境にある中で「長距離の輸送力不足を航空輸送で補う形で貢献できれば」と話す。



濱田隆三部長（右から2人目）は、供給拡大などをきっかけとして需要取り込みを図る方針だ

国内貨物の予約システム導入など一貫刷新を実施する

平野ロジスティクス

九州全体でサービス提供

福岡―関西のOLTなど

平野ロジスティクスは、福岡空港と北九州空港、関西空港と北九州空港、関西空港を結ぶOLT、福岡集荷・配送などのサービスを提供している。主な取り扱いは電子部品や自動車部品など。福岡空港発・関西空港向けのOLTは大型車を1日1〜3台の規模で運行しており、九州地区における事業の主軸だ。さらに福岡―北九州間でも大型車を毎日運行している。熊本県内北九州空港間では2〜4台車による輸送も手掛けている。九州全体でサービスを提供している。半導体関連貨物を首都圏に輸送するケースもあり、航空貨物から一般貨物まで、顧客ニーズに柔軟に対応している。



新型トレーラー「+1α」



山田康平社長

平野ロジスティクスは福岡空港の近接地に拠点を置いている。九州地区全体の事業は関東支店がコントロールする体制だ。福岡営業所の山田康平社長は「九州にはメーカーの生産拠点が目立っている。高品質、効率的なサービスを提供する。九州地区の航空物流を強力サポートする」と話す。

九州圏では佐賀県を除く全県に旅客支店長、空港所長が配置されており、「心理的にも近い距離で仕事をしている」（濱田部長）。こうした横のつながりから生まれるビジネスもあり、貨物、旅客ともにグループを挙げて九州を盛り上げていく方針だ。

一方、福岡空港の新貨物地区が2月21日に供用を開始した。山田社長は「トラック待機場が新設されたことをはじめ、貨物地区がより効率的に運用されることに期待している」と話す。空港内事務所の設置も検討しているという。

平野ロジスティクスは物流効率化や環境負荷低減の観点などから最新鋭のオリジナル・トレーラーを導入を進めている。大型トラックよりLD3コンテナ換算で7台多く搭載できるセミトレーラー車「エター」、また「+7」に改良を加えて同8台多く搭載できる「+1α」、96坪仕様のULDを4台搭載できるセミトレーラー車「+2」を導入済み。これらトレーラーに加えて、近々「+1α」の運行を開始する計画だ。従来の「+1」と比べて積載量が約1.5倍に増えていることも、車両側面から貨物搭載が可能だ。半導体製造装置やフレーターに搭載する大型・背高貨物などの輸送に威力を発揮する。

新しい輸送の形を提案 OLT Innovator, Hirano Logistics

九州の航空物流を強力サポート

+2 (プラスツー)
ULD5枚積みフルトレーラー



+1 (プラスワン)
ULD4枚積みセミトレーラー



+7 (プラスセブン)
ペリー貨物専用車両
LD3コンテナ換算で13台を搭載



+8 (プラスエイト)
ペリー貨物専用車両
LD3コンテナ換算で14台を搭載、従来搭載数に比較してプラス8台



- 365日24時間の営業体制
- トレーラーを含めて全ての車両をGPSにて管理
- 航空貨物輸送やセキュリティに精選したスタッフがご対応
- 全ての車両がローラーベッド仕様です
- 96空調車も運行中!

航空貨物輸送のバイオニア
株式会社 平野ロジスティクス
<http://www.hirano-logistics.com>
 本社 078-994-0069 関東支店 0476-35-3600 東京営業所 03-6382-7768 東海支店 0538-42-9480
 中部支店 0569-38-7208 関西支店 072-463-7455 神戸営業所 078-965-0918 福岡営業所 092-586-8915



CHINA AIRLINES CARGO お問い合わせ: 03-5888-1111